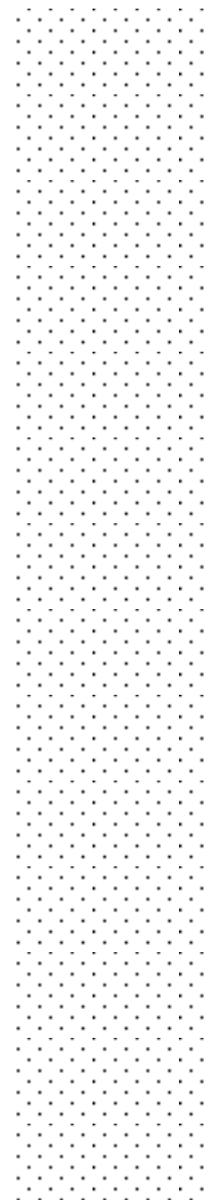


# 平成 28 年度事業報告書



社会福祉法人イリアンソス

## 目 次

I	社会福祉法人イリアンソス 事業報告	3 p
II	のぞみの家 事業報告	10 p
III	活動センターかなえ 事業報告	19 p
IV	なかまの家 事業報告	27 p
V	生活寮そら 事業報告	37 p
VI	生活寮にじ・かぜ短期入所 事業報告	43 p
VII	このみ余暇・居宅・相談支援 事業報告	44 p

### 基本方針

- (1) 障害のある利用者一人ひとりを「主人公」とし、生きてきたそれぞれの歴史を大切に、これからの人生を共に考えていける、きめの細かい丁寧な実践をすすめます。
- (2) 職員一人ひとりが見通しと目標をもって仕事に立ち向かい、自らの成長への願いと力量を高めていくことのできる職場づくりをすすめます。
- (3) 利用者・家族・職員・役員など、法人を構成する一人ひとりの意見が決定の過程に反映され、理解と納得のもとに実行に移していくことのできる組織運営を進めます。
- (4) 時代の変化や地域の要請に応じていける法人・施設として経営基盤の確立を求めつつ新たな事業展開をしていきます。

# I 社会福祉法人 イリアンソス

## 事業報告

### 法人本部まとめ

#### ○地域のくらしをささえていくために

当法人の基本方針の一つに「障害のある利用者一人ひとりを主人公とし、生きてきたそれぞれの歴史を大切に、これからの人生をともに考えていけるきめの細かい丁寧な実践をすすめます」とあります。

しかし、この基本方針を進めるためには地域、利用者本人、関係者のねがいや法人の努力等が必要で改めて実践の難しさを痛感した年となりました。

具体的なケースとして、「生活寮」での暮らしが本人の要求とうまくいかないため、寮を出たいという願いが本人から出ました。この要求を解決していくために、アパートを探したり他の法人の生活寮を体験したりさまざまな取組をしました。他を経験すれば「生活寮」の良さがわかってくれるのではと考えたからです。また、地域で障害のある人がアパートを探す難しさを分かってもらえるのではと考えて取り組んできました。

しかし、生活寮や通所のスタッフも必死で支援をしましたが、「生活寮」を出たいという利用者の要求は変わることはなく、ルールを守ることができず退所という結果になりました。当法人の生活寮でくらし、当法人の通所に通う利用者に対しての支援では、法人の取り組みの範囲内の中でしか考えることができず、結果的には法人の支援から離れることが、この利用者にとって必要な支援として決断せざるを得ませんでした。

このことは、あらためてわたしたちの支援とは何かということを考えさせられました。つまり、わたしたちが利用者に良かれと思って支援しても利用者本人が納得しなければ何の意味もないということです。このケースは、わたしたちの支援は利用者が自分の人生の主人公になれる支援と一緒に考え、様々な機関と連携しながら取り組んでいくことが大切だということを経験することになりました。

#### ○大きく変わる社会保障

障害があっても自分は人生の主人公であるという姿勢は、これから大きく変わろうとしている社会保障、社会福祉、障害福祉に対応していくためにもとても大切なことと考えます。

現在、「地域共生社会」の実現を障害福祉計画に盛り込むことを国が「基本指針」として提案しています。この「地域共生社会」とは、「あらゆる住民が、「支え手」と「受け手」に分かれるのではなく、地域、暮らし、生きがいとともに

創り、高め合うことのできる『地域共生社会』の実現に向けた取り組み等を計画的に推進することを定める」とあります。

確かに、ともに創り高め合うことは、大切なことです。わたしたちは、地域で障害のある人たちのことを理解してもらおうと長年当事者関係者と地域活動をしてきました。だからその必要性は十分理解しているつもりです。しかし、昨年の4月に「障害者差別解消法」が施行されたように、障害者への差別はまだまだ存在しています。その中で「支え手」にも「受け手」にもなるようにといわれても、障害への差別がある中では、共生社会から弾かれてしまいかねません。

また、障害者総合支援法の改正でも、区分によって使えるサービスが限られ、ますますその傾向が強まっています。その流れの中で、ともすれば支援者側が法律で定められたサービスの範囲内で支援を考えがちになります。

わたしたちも含め障害のある人も、法律の範囲内で生きていくことはありません。障害のある人を一人の人間として人生の主人公として見ていくことで、政策動向に左右されることなく人生を送れるよう制度の枠だけでなく地域の力を借りながら、法人全体で支援していくことが大切だと考えます。

## ○障害のある人の加齢に伴う専門的視点の支援の充実

### ○今後の課題

- ・生活寮の安定した支援
- ・通所部門
- ・学齢期の充実
- ・相談支援の役割
- ・居宅事業の今後の展望

### ○平成28年度主な工事・備品購入概要

事業名	種類	事業総額	補助金額	事業所	備考
浴室リフト 設置工事	共同 募金会	1,891,764円	1,410,000円	生活寮 にじ	
浴室リフト 設置工事	無し	1,883,684円	—	生活寮 そら	
床走行リフト 設置工事	共同 募金会	402,400円	280,000円	にじ・かぜ 短期入所	

## 具体的な取り組み

### <理事会の状況>

回数	日にち	出席者	議事内容	
1	5月27日	理事 6名 監事 1名	報告	処遇改善金について 活動センターかなえについて
			審議	平成27年度事業報告(案)について 平成27年度決算報告(案)について 平成27年度監査報告について
2	11月9日	理事 5名 監事 1名	報告	処遇改善金について 新制度における社会福祉法人役員・評議員の 選任及び手続きのスケジュールについて
			審議	社会福祉法改正に伴う定款変更(案)について 評議員選任・解任委員会運営細則(案)について 平成28年度第1次補正予算(案)について
3	1月25日	理事 4名 書面出席1名 監事 2名	報告	定款について
			審議	評議員選任・解任委員の決定について 新評議員の推薦について
4	3月14日	理事 6名 監事 1名	報告	法改正にともなう動向について 新定款による評議員選出について
			審議	評議員の選任について パートタイマー就業規則(案)について
5	3月15日	理事 7名 監事 1名	報告	新定款による評議員選任委員会開催について
			審議	理事長の選任について
6	3月29日	理事 7名 監事 1名	審議	社会福祉法人イリアンソス定款細則について 平成28年度第2次補正予算(案)について 平成29年度事業計画(案)について 平成29年度予算(案)について

## <評議員会の状況>

回数	日にち	出席者	議事内容	
1	5月27日	評議員 11名 監事 1名	報告	処遇改善金について 活動センターかなえについて
			審議	平成27年度事業報告(案)について 平成27年度決算報告(案)について 平成27年度監査報告について
2	11月9日	評議員 12名 監事 1名	報告	処遇改善金について 新制度における社会福祉法人役員・評議員の 選任及び手続きのスケジュールについて
			審議	社会福祉法改正にともなう定款変更(案)について 評議員選任・解任委員会運営細則(案)について 平成28年第1次補正予算(案)について
3	3月14日	評議員 13名 監事 1名	報告	法改正にともなう動向について
			審議	理事の選任について パートタイマー就業規則(案)について
4	3月29日	評議員 11名 監事 1名	審議	社会福祉法人イリアンソス定款細則(案)について 平成28年度第2次補正予算(案)について 平成29年度事業計画(案)について 平成29年度予算(案)について

## <広報部会の状況>

法人の情報を伝えたり、障害福祉情勢を伝えたりする事が出来ました。写真を多用して、より伝わりやすい工夫をおこなっていきました。記事内容は送迎について特集を組み、日常の支援の大切さを意識した内容にしました。「コラム」記事では利用者の余暇についての記事を掲載して、広報誌全体としてバラエティー豊かな内容にするよう心掛けました。ホームページでの記事閲覧も継続して、法人行事等の情報もこまめに更新して発信していきました。課題として年3回（本来は4回）の発行になりました。要因としては、広報担当者会議での議論が停滞してしまい、記事内容の確定が遅れて全体の予定に影響してしまったことが考えられます。今後も余裕を持った計画と記事内容の工夫が必要です。

## <職員研修の取り組み>

- ・新人職員研修：平成28年7月8日実施 平成28年度に採用された職員を対象  
「障害者問題と法人理念」 理事長 磯部光孝  
「法人職員の仕事と役割について」  
社会福祉法人ウィズ町田 理事長小野浩氏  
「障害者の虐待防止や権利擁護について」  
イリアンソス理事 秋野達彦弁護士  
「障害のある人の支援について」 このみ 佐々木玲子  
「先輩職員から伝えたいこと」のぞみの家チャレンジ班 吉村裕美  
「法人内施設の見学」
- ・中堅職員研修：平成28年10月15日実施  
「法人職員として果すべき役割について」  
講師：小野浩氏（社会福祉法人ウィズ町田理事長）
- ・全体職員会議：平成28年11月23日実施 全職員を対象  
「共同作業所づくりの過去、現在、未来」  
講師：西村直氏（きょうされん理事長、亀岡福祉会理事長）  
「障害のある人の食事について」  
講師：佐々木玲子氏（このみ）
- ・第2回社会福祉法人イリアンソス事業報告会：平成29年2月25日実施
- ・その他、きょうされん、東京都社会福祉協議会、食品衛生研修会（保健所）、安全衛生労務管理講習会、基本介護技術講習会、普通食の再調理実技講習会、経口摂食の重要性と安全性についてなど他団体の研修会にも積極的に参加。

## <全体家族会の取り組み>

- ・3月22日 法人全体家族会交流会 参加者：30人

法人全体家族会交流会は 2 回目となり、各通所事業所と放課後等デイサービスの活動の様子を写真で紹介した。他事業所の様子を知ったりする中で家族同士が悩みや将来のことなどが気軽に話せる関係づくりの場になるよう継続していく。来年度は、交流会以外に法人事業の方針等を伝えることや、テーマを決めて学習の機会を作る必要もある。

## Ⅱ 部門別事業報告

### 1 日中支援部門

#### 重点課題

- 1 通所事業所サービス管理責任者会議を発展的に解消し、通所責任者会議を開催する。また、通所および生活寮との連携を強化し、利用者状況の把握や事業所運営の把握をして課題の早期解決ができるようする。
- 2 担当国会議（保健衛生、車両送迎、環境整備）は、引き続き利用者の健康と安全を保障するため、課題を整理するだけにとどまらず実践できるように進める。
- 3 利用者が主人公の施設運営ができるよう実践の検討内容を整理し研修が組織的に行えるようにする。

#### まとめと今後の課題

- ・通所の施設長三名で「通所責任者会議」を週に一回開催した。施設長三名の内二名が新任施設長でもあることから施設運営に関係する収支計算書の確認や予算書づくりなども行ってきた。生活寮のユニット会議にも交代で出席し通所事業所の状況などを伝え合うことができた。通所事業所が抱える課題を整理し、連携し合いながら解決していくしくみが必要でになっている。
- ・概ね月に一回、保健衛生、車両送迎、環境整備の担当者会を開催することができた。各担当者会で利用者の健康と安全を保障するため、情報の共有や具体的な作業を行ってきた。一方では担当者会任せになっていることもあるため、積極的に、担当者会がそれぞれの事業所に問題提起や提案を行うことが必要になっている。

## ○担当者会の状況

### 健康・衛生担当者会

各施設での感染症の状況を共有しながら感染症予防に努めました。日常の健康や、衛生管理に関することも確認しあいました。また、法人全体で PT や OT、栄養士などの専門職が関わる場面が増えてきたため、専門職の役割、現場職員として利用者支援に活かしていく方法などを話し合いました。災害時の薬の預かりの実施については、法人事務局で再検討します。

### 車両・送迎担当者会

今年度は、車両点検表を作成し、定期的に日常点検を行いました。タイヤ交換の講習を冬季のスタッドレスタイヤ交換などに担当者で行いました。

車両整備計画については、各車両の登録日や車検の日などの一覧を作成したことにとどまっています。来年度は、各車両の管理、申請などの計画を作成し行います。また、事故訓練についても行います。

### 防災・環境整備担当者会

- ・災害時の備蓄品の確認は各施設で行いました。
- ・ヒヤリハットは、毎回会議のときに持ち寄って報告・確認しあいました。
- ・自主訓練（部分訓練）は、ほぼ定期的に行うことが出来ましたが、一部月をまたいでの実施になりました。総合訓練、または総合訓練の代わりに消防署と一緒に通報訓練を実施しました。来年度は総合訓練または消防署と一緒に部分訓練の実施を検討します。
- ・普通救命講習は定期的な講習が必要ですが、今年度は開催出来ませんでした。今後どのように実施していくのか検討が必要です。

# 1) のぞみの家 事業報告

<開所日数> 246日

<在籍者数> 1日平均23.0人

<平均工賃> 月平均4,108円 賞与(夏5,000円)(冬7,000円)

<工賃総額> 工賃総額 1,232,560円

## 全体の重点課題

1. 「利用者中心」の考えを柱に全ての支援をおこなっていきます。
2. 利用者の食事、健康管理や家庭とのやりとりを大切にしていき、生活全体を支える支援をおこなっていきます。サービス等利用計画と個別支援計画を連動させ、日中だけではなく、利用者中心の生活を支えていきます。
3. 法人内の事業所との連携を更に強化していき、利用者中心の支援がおこなえるようにしていきます。その為に、常勤・非常勤職員は、責任と自覚を持って会議への参加と各部門担当の業務をおこなっていきます。
4. 利用者を中心とした支援ができるよう、記録や会議を通して支援内容の振り返りをおこなっていきます。専門性向上の為に外部研修への参加と施設内での実践報告会をおこないます。

## 具体的な方法と成果

1. 利用者の基本情報がわかるようにプロフィールを作成しました。結果として、個人への基本的な理解が深まり、より丁寧な支援ができるようになりました。又、現場会議の内容を実践の内容に特化していくことで、利用者中心の支援がおこなえました。
2. 栄養士の配置がおこなえました。結果として、栄養バランスを考えて献立を組むことができました。季節や行事に合わせた献立もおこなえて、視覚的にも楽しめる食事になりました。  
改善として、家族支援や余暇支援のニーズも高まる中で、サービス等利用計画と個別支援計画の連動が今後の課題です。
3. 担当者会議での決定事項を実行に移せるよう努力しました。看護師との連携、施設の環境整備、運転マニュアルが完成しました。結果として、各業務の体系化が進みました。
4. 年20回ほどの事業所内外の研修会へ参加しました。  
困難事例に対しては、スーパーバイザーをむかえながら、職員で話し合いを重ねていきました。その中で、利用者中心とした支援のあり方と利用者との距離感を改めて考え直す契機になりました。利用者の退所という結果になりましたが、今回の事例を通して利用者中心という言葉の危うさや客観的に支援を振り返る専門性が必要だと感じました。

## 各班の重点課題

### おひさま班

1. 1人ひとりに合わせた活動をします。
2. 身体づくりの活動を大切にします。

### 具体的な方法と成果

1. 個々の活動を増やしていきました。公園へ散歩チームと室内でストレッチチームなどに分かれて活動しました。結果として、表情や身体全体で要求を表現する姿が増えていきました。  
今後、活動に合わせたグループ編成を考えていきます。
2. ストレッチプログラムを活用して意識的にストレッチがおこなえました。プール活動も定期的におこなえて身体を伸ばす時間が増えました。  
医療面では通院の必要性がさらに増えてきました。医療との連携が今後重要になってきます。  
今後、更なるPTプログラムの活用が重要になってきます。理学療法士との連携が課題です。

### 授産売り上げと評価

<自主製品>売り上げ目標(90,000円) 64,053円

物品販売や作品展で販売しました。材料費や人件費を考慮した値段設定を行いました。

### 元気たんぽぽ班

1. 気持ちの変化を丁寧に見ていきます。
2. 身体機能を維持します。

### 具体的な成果と方法

1. 自治会を週1回開催して、金曜レクの内容を皆で話し合えました。結果として、活動の見通しがつきやすく、写真を見るのが楽しそうにしていました。  
今後、まとめの時間の工夫をおこない、仕事の成果や頑張りを認められるような方法を検討していきます。  
今後、活動の見える化を重点的に進めていき、よりわかりやすい活動を目指していきます。
2. 屋上プールがおこなえなかったです。計画が遅くなってしまった事が要因です。体育館での活動が継続できました。  
牛乳パック回収ワゴンを買いましたが、活用できませんでした。ワゴンを使用できる体制を工夫していきます。同時にパック回収場所の新規開拓をおこなっていきます。結果として、活動の場所が広がり、より楽しく様々な場面で身体を動かす活動が出来て身体機能の維持が出来ます。

### 授産売り上げと評価

<牛乳パック回収>売り上げ目標(20,000円) 14,316円

回収作業は、車なども使用して行きます。卸作業は1ヶ月に1回行きます。

<自主製品>売り上げ目標(50,000円) 30,793円

和紙製品を中心に一つ一つ丁寧に仕上げ、地域行事や作品展に出品しました。

### チャレンジドリームズ班

1. 自治会活動を利用者中心におこないます。
2. ケーキ作りを継続、発展させていきます。

### 具体的な成果と方法

1. 利用者中心の自治会がおこなえました。積み重ねが出来ていて仲間同士で意見を認め合っています。今後、長期の課題となっているコミュニケーションツールの工夫をおこなっていきます。

結果として、利用者主導の話し合いの実現が出来ます。

2. ケーキ細菌検査と製造許可の更新手続き実施できました。今後、計画を立てて、検査を実施していきます。ケーキの在庫管理と売り上げを視覚化して、ケーキ販売に対する意識を高めていきました。結果として、仕事の質の向上がおこなえました。今後、計画を立てて販売を継続していきます。

### 授産売り上げと評価

＜ケーキ＞売り上げ目標（400,000円） 464,744円

細菌検査をおこない、安心安全なケーキを提供していきました。

売り上げ把握をおこないました。売り上げ目標達成しました。

＜喫茶＞売り上げ目標（60,000円） 61,385円

在庫数と賞味期限と利益の把握をおこないました。施設内でも積極的に販売していきました。

＜お茶＞売り上げ目標（60,000円） 46,700円

売り上げファイルで金額を把握しました。仕入れ数をお茶担当班と考えていきました。

＜わかめ＞売り上げ目標（60,000円） 34,700円

在庫管理と売り上げを把握し、定期的な仕入れに行きます。保管方法に気をつけていきました。今年度で仕入れ先の閉店により販売終了します。

＜オムツ＞売り上げ目標（700,000円） 560,023円

担当職員と連携して、お金のやり取りミスがないようにしました。

＜布巾＞売り上げ目標（2,000円） 3,550円

物品販売と分けて売り上げ把握しました。のぞみの家内での売り上げのみの目標にしました。売り上げ把握も丁寧にこなっていきました。

＜自主製品＞売り上げ目標（30,000円） 77,253円

ビーズの在庫管理と利益を把握しました。

＜データ入力＞売り上げ目標（15,000円） 39,896円

埼玉福祉会と丁寧に連絡をとっていきました。締め切りに間に合うように担当を決めて分担して作業を進めました。

＜リサイクル久留店＞売り上げ目標（600,000円） 319,125円

短時間でも可能な限り多く開催していきました。天候、体調を考慮して無理なく開催しました。今後の開催方法についても検討していきます。

<きょうされん物品販売>

売り上げ目標（1,900,000円） 1,839,574円

自治会で役割と目標金額を決めていきました。全員で協力しておこなえました。  
お客様とのつながりを大切にしながら販売しました。

○日中活動の計画

1日の流れ

9:30	受け入れ開始
10:00	朝の会
12:15	昼食
13:30	チャレンジ班 仕事開始
14:00	おひさま班・元気なたんぽぽ班 午後活動開始
16:00	終わりの会・送迎開始

1週間の流れ

	月	火	水	木	金
午前	和紙 絵画 資源回収 パソコン ケーキ作り	和紙 絵画 資源回収 パソコン ケーキ作り	和紙 絵画 資源回収 パソコン ケーキ作り	和紙 絵画 資源回収 パソコン ケーキ作り	レク (月1回は 外出レク)
午後	ストレッチ ダンス パソコン ケーキ作り	リラックス パソコン ケーキ作り ボーリング	ストレッチ パソコン ケーキ作り トランポリン	自治会 パソコン ケーキ作り ボールプール	

年間行事

	のぞみ内 行事	地域行事
4月	花見	
5月	利用者健康診断	
6月	おひさま班宿泊行事	
7月	きょうされん夏季物品販売	特別支援学校夏祭り
8月		東京都障害者美術展
9月	元気なたんぽぽ班宿泊行事	いのちかがやけ作品展
10月		地域センターまつり
11月	きょうされん冬季物品販売	特別支援学校文化祭 けんちの里まつり 青少協まつり
12月	チャレンジドリームズ班宿泊行事 ごくろうさま会（のぞみ内で焼肉）	のぞみの家作品展
1月		市の作品展 七福神まつり
2月	きょうされんバレンタイン物品販売	
3月	きょうされんホワイトデー物品販売 がんばろう会（のぞみ屋外で焼肉）	

## ② 利用者の状況（平成 28 年 3 月 31 日現在）

### a. 人数構成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
チャレンジ班	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
たんぽぽ班	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
おひさま班	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

### b. 居住地別

	東久留米	東村山	杉並	合計
チャレンジドリームズ班	6	1	1	8
元気なたんぽぽ班	6	2		8
おひさま班	8	1		9
合計	19	4	1	25

### c. 日中活動の場

	自宅 (家族同居)	自宅 (1人暮らし)	生活寮	合計
チャレンジドリームズ班	2	1	5	8
元気なたんぽぽ班	3		5	8
おひさま班	4		5	9
合計	9	1	15	25

d. 年齢構成

	性別	～	～	～	～	～	～	～	51	計
		20	25	30	35	40	45	50	～	
チャレンジ ドリームズ班	男					1	1		1	3
	女			1	1			2	1	5
元気な たんぽぽ班	男			1	1		2			4
	女			1		3				4
おひさま班	男			2	1	1				3
	女			2	1		1	1		6
合計				7	4	6	3	3	2	25
平均年齢		男性38.1歳			女性38.5歳			合計38.8歳		

e. 障害区分

○手帳別

身体障害者 及び 知的障害者		愛の手帳（知的障害）						
		1度	2度	3度	4度	なし	合計	
身体 障害者 手帳	1種	1級	1	7	2	1	3	14
		2級		3		1		4
		3級						0
		4級		1				1
	2種	5級		3			1	4
	なし				1	1		2
	合計		1	14	3	3	4	25

○障害支援区分

	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	合計
チャレンジドリームズ班	4	4					8
元気なたんぽぽ班	8						8
おひさま班	9						9
合計	21	4					25

f. 障害・疾患（医療的ケア）の内容

脳性まひ 体幹機能障害 知的障害 視力障害 聴力障害 言語障害 てんかん レノックス症候群 小頭症 脳梗塞 捻転ジストニア レット症候群 自閉症 脊髄損傷 その他

g. 車椅子の使用状況

利用状況		チャレンジ ドリームズ班	元気な たんぼぼ班	おひさま班	合計
常時使用	自力移動可	2			3
	自力移動不可	2		7	8
状況により 使用	外出時使用		2		2
	その他				
独歩	要介助	1	4	2	7
	独歩	3	2		5
合計		8	8	9	25

③ スタッフの状況（平成28年3月31日現在）

a. 各会議、打ち合わせ

会議名	参加スタッフ	開催頻度
職員会議	施設長、正規職員、非常勤職員	毎月1回
現場会議	正規職員、非常勤職員	毎週1回
アセスメント・ モニタリング 会議	サービス管理責任者、主任、担当職員	随時
各班会議	サービス管理責任者、各班主任、各班担当職員	毎月1回
保健・車両・防災	看護師（保健衛生のみ）、担当職員	毎月1回
寮ケース会議	担当職員、各寮の職員、	毎月1回

b. 運営体制（述べ人数）

職名	常勤	非常勤	パート	委託	合計	備考
施設長	1				1	
サービス管理 責任者	1				1	
事務	1		1		2	
支援員	4	2	1 6		2 2	
調理員			4		4	
運転手				2	2	
嘱託医		1			1	2ヶ月1回
看護師		1			1	1ヶ月2回
会計				1	1	月1回以上
労務士				1	1	適宜
清掃				1	1	年6回
合計	7	4	2 1	5	3 7	

c. 1日の体制

職名		常勤	非常勤	パート ①	パート ②	パート ③	パート ④	合計
施設長		1						1
事務		1		1				2
サービス 管理者	チャレンジ 班	1	2		1			3
	たんぼぼ 班		2		3		1	5
	おひさま 班		2		4			6
給食						2		2
運転手							2	2
合計		7	2	1	8	2	2	2 2

※パート①②（事務・実践）：9時30分～17時8時30分～、9時～、10時～

パート③（給食）：8時30分～14時15分

パート④（運転）：朝、帰りの送迎時間のみ

8時30分～10時 15時30分～17時

## 2)活動センターかなえ 事業報告

### ① 施設の運営状況

<開所日数>	239日		
<在籍者数>	1日平均	18.01人	
<平均工賃>	月平均	1,600円	賞与 [年1回] 7,500円
<工賃総額>	工賃総額	510,500円	

### 活動センターかなえ 重点課題

- ・新しく利用者が増えます。安全に過ごせることを第一に、仕事の内容・作業場所や今後の活動の在り方を検討していきます。
- ・販売会を開催します。
- ・外部機関や関係者と連携していきます。

### 具体的な方法と成果

- ・助成金を使用して、缶つぶし機の購入をしました。作業内容や工程を職員間で確認し、安全面や衛生面に配慮しながら作業を始めました。作業の1つとして利用者に提案し、なのはなグループとだるま班で利用者の様子に合わせて作業に取り組んでいます。
- ・3月より隣接する公有地の整備を始めました。使用する道具の整理や、取り組みなどを利用者に提案しながら行っていきます。
- ・販売会を3月に開催しました。昨年度同様にマルФЗ東久留米店の催事スペースを借りてなかまの家と共催で行いました。多くの一般の方が来店し商品を見て回ったり購入したりして頂くことができました。次回は開催の時期を早めていくことを検討します。
- ・車いすの利用者が入所されました。移乗を安全に行う為のリフト購入やおむつ交換等のためのベッドの購入し、安全面や衛生面に配慮した環境の整備を行いました。
- ・OTや嘱託医と連携し、専門的な意見やアドバイスを受けて、利用者支援に取り入れました。引き続き、連携しながら利用者支援に生かしていきます。

### 各班の活動

#### <だるま班>

#### ○日中活動の支援

だるま班

- ・自己表現できる活動として創作活動を充実させます。
- ・利用者それぞれにあった作業内容を検討していきます。

#### ○具体的な方法と成果

- ・作品展の開催し、作品を見てもらえるように展示しました。『グッズデザインコンクール』や『ぴゅああーと展』応募し、『ぴゅああーと展』では1点の作品が選ばれ出品されました。
- ・和紙作りでは、分担して作業を行なっています。ウォーキングでは目的を持つなど、見通しをもって行えるようになってきました。新たな仕事として空き地の清掃業務にも取り組み始めています。

#### ○まとめ

- ・引き続き、創作活動の充実を図り、自己表現の方法については、新たな画材に挑戦するなど個々に合った形を検討していきます。
- ・和紙作りでは新たにおはながみを使用して作成しています。それぞれにあった作業工程について引き続き検討、また提案をしていきます。
- ・空き地整備は3月から始めました。利用者にあった取り組み方について検討し実践していきます。

### <なのはなグループ>

#### ○方針

- ・自治会の中で仕事や給料について話し合い考えていきます。
- ・作業で完成した自主製品の商品化を、年間を通して進めていきます。
- ・身体機能の維持・改善を図ります

#### ○具体的な方法と成果

- ・新たな仕事を始める前に自治会「ひまわりの会」の中で説明、確認をした上で進めています。また、写真や本を見ながら見通しを持って仕事に取り組んでいます。
- ・手芸を始める前に何を作るかを決めイメージを持ちながら進めています。
- ・医療やOTの先生と連携・相談をして活動中での注意点等を確認しています。

#### ○まとめ

- ・給料や仕事については引き続き何度も話し合いを重ねていきます。また今まで以上に見通しを持って仕事に取り組める様に工夫をしていきます。
- ・材料の準備が間に合わず商品化するのが遅れています。利用者がイメージを持っている時に商品化できるよう材料等の準備を進めていきます。
- ・引き続き医療やOTの先生と連携し本人が納得の上進めていけるようにします。

## <授産事業について>

- ・資源回収・おろし 売上 132,730 円  
倉庫を利用しながら進めています。また、回収場所の新規開拓をしていきます。
- ・市報配布 売上 284,314 円  
配布先の地域に慣れ配布するスピードが上がってきています。配布忘れなどないように確実に配布していきます。
- ・自主製品(和紙・さきおり・手芸) 売上 13,450 円  
作品展と販売会を分けて開催しました。一般の方にも購入して頂くことができました。引き続きなかまの家と共催で開催していきます。
- ・ボーナスへの取り組み 売上 645,890 円  
きょうされんの物品販売のカタログを利用し年4回(春、夏、冬、バレンタインデー)取り組んでいます。定期的に行うことで安定したお得意先も徐々に増えています。配布先を少しずつ広げ、新規購入者も少しずつ増えているので、お得意様として定着化するように取り組んでいます。

## <その他活動について>

- ・調理やレクについて  
衛生面に気をつけながら行いました。マスクや手袋など抵抗がある人でも少しずつ慣れ着用する事ができています。レクは引き続き楽しみながら取り組んでいます。
- ・旅行  
1泊2日で貸し切りのできる宿に泊まり、活動では経験できないことを安全に楽しめるように心がけました。来年度も安心して楽しめるように計画を立てていきます。
- ・クラブ活動(フラワーセラピー)  
先生との日程が合わず、2度のみの実施となりました。生花やリースなど季節を感じることでできる作品を作ることができました。来年度も引き続き行うか自治会で確認しながら進めて行きます。
- ・プール  
安全を第一に活動に取り組み、プールでしか味わえない水の感触を楽しみ体を動かしました。引き続き安全第一で取り組んでいます。

## ②利用者の状況（平成29年3月31日現在）

### a. 人数構成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
なのはなグループ	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
だるま班	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
合計	20	20	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19

### b. 居住別

	東久留米市	三鷹市	合計
なのはなグループ	12	1	12
だるま班	6	0	6
合計	19	1	19

### c. 生活拠点別

	自宅 (家族同居)	生活寮	合計
なのはなグループ	10	3	13
だるま班	1	5	6
合計	11	8	19

### d. 年齢構成

	性別	～20	～25	～30	～35	～40	～45	～50	51～	計
なのはなグループ	男		1	1	2			1	1	6
	女	1	2		2			2		7
だるま班	男			2	2	1				5
	女				1					1
合計		1	3	3	7	1		3	1	19
平均年齢		男性 34.5歳			女性 32.4歳			合計 33.6歳		

## e. 障害状況

### ○手帳別

身体・精神障害者 及び 知的障害者		愛の手帳（知的障害）					
		1度	2度	3度	4度	合計	
身体・ 精神 障害者 手帳	1種	1級	1				1
		2級					0
		3級		1			1
	2種	2級					0
		3級					0
		4級		1			1
		5級					0
	精神3級			1		1	
	なし	1	1	3		15	
合計	2	13	4	0	19		

### ○障害程度区分

	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	合計
なのはなグループ	4	6	3				13
だるま班	6						6
合計	10	6	3	0	0	0	19

## f. 障害・疾患（医療的ケア）の内容

知的障害 視力障害 聴力障害 自閉症 ダウン症 精神障害 てんかん  
レノックス症候群 脳性マヒによる体幹機能障害 ルビンスタイン・タイビー  
症候群 動脈管開存症 他

## g. 車いすの使用状況

利用状況		なのはな班	だるま班	合計
常時使用	自力移動可			0
	自力移動不可	1		1
状況により使用	外出時使用			0
	その他			0
独歩	要介助	4	1	5
	独歩	7	6	13
合計		11	7	19

### ③スタッフの状況（平成29年3月31日現在）

#### a. 運営体制（述べ人数）

職名	常勤	非常勤	パート	委託	合計	備考
施設長	1※				1	
サービス管理責任者	1※				1	
事務			1		1	
支援員	5	1	9		15	
看護師			1		1	
運転手			1	1	2	
嘱託医		1			1	2か月に1回
会計				1	1	
労務士				1	1	
<b>合計</b>	<b>7</b>	<b>2</b>	<b>12</b>	<b>3</b>	<b>24</b>	

※施設長とサービス管理責任者は兼務

#### b. 1日の体制

職名	常勤	パート①	パート②	委託	合計
施設長	1※				1※
サービス管理責任者	1※				1※
事務		1			1
実践	なのはなG	2	5		7
	だるま班	3	2		5
運転手（一部委託）				1	1
<b>合計</b>	<b>6</b>	<b>1</b>	<b>7</b>	<b>1</b>	<b>16</b>

※施設長とサービス管理責任者は兼務

### c. 各会議、打ち合わせ

会議名	参加スタッフ	開催頻度
職員会議	施設長、正規職員、非常勤職員	毎月1回
現場会議	正規職員、非常勤職員	毎週1回
リーダー会議	施設長、主任、	毎週1回
各班会議	各班主任、各班担当職員	毎月1回

## ④利用者の仕事・活動

### a. 運営体制

	なのはなグループ	だるま班
利用者数	13	6

### b. 日課表

時間	なのはなグループ・だるま班	スタッフ
8:30		朝礼
8:40		送迎開始・準備・会議等
10:00	朝の会・ラジオ体操 室内作業 外作業→休憩 休憩→室内作業 外作業	活動支援 昼食支援 片付け・活動準備
12:00	昼食・休憩	活動支援 ↓
13:30	室内作業 外作業 (休憩)	送迎
15:00	室内作業 外作業	片付け・会議
15:30	帰りの会	
17:00		終礼

## 1 週間の流れ

	月	火	水	木	金
午前	・外作業 ・室内作業 ・ウォーキング	・外作業 ・室内作業 ・ウォーキング	・外作業 ・室内作業 ・ウォーキング	・外作業 ・室内作業 ・ウォーキング	・外作業 ・室内作業 ・ウォーキング
午後	・外作業 ・室内作業 ・創作 ・ウォーキング	・外作業 ・創作 ・ウォーキング ※自治会	・外作業 ・室内作業 ・創作 ・ウォーキング	・外作業 ・室内作業 ・創作 ・プール ・ウォーキング	・外作業 ・室内作業 ・創作 ・ウォーキング

- ・外作業…資源回収・おろし、広報(チラシ)配布、情報誌ぱど配布、空き地整備
- ・室内作業…和紙製作、さきおり、手芸、広報(チラシ)折り
- ※自治会…週 1 回実施 ※調理…月 1 回実施

## c. 行事・レクレーション

月	なのはなグループ	だるま班
4 月	歓迎会 (全体レク)	
5 月	カラオケ(ｼﾀﾞｯｸｽ武蔵村山店)	野川公園
6 月	カラオケ(ｼﾀﾞｯｸｽ武蔵村山店)	小金井公園
7 月	カラオケ(ｼﾀﾞｯｸｽ武蔵村山店)	
8 月	お菓子作り	お菓子作り
9 月	深大寺	カラオケ(ｼﾀﾞｯｸｽ武蔵村山店)
10 月	旅行 (北信州周辺)	羽村動物公園
11 月	食事(イオン武蔵村山店)	西武遊園地
12 月	クリスマス会 (かなえ全体レク)	
1 月	カラオケ(ｼﾀﾞｯｸｽ武蔵村山店)	カラオケ(ｼﾀﾞｯｸｽ武蔵村山店)
2 月	いちご狩り (はっぴーいちご園)	深大寺
3 月	入所成人を祝う会・交流会 (法人全体)	

### 3) なかまの家 事業報告

#### ① 施設の運営状況

<開所日数>	246日
<在籍者数>	1日平均 16.12人
<平均工賃>	月平均 2,000円 賞与 [年2回] 5月 6,600円 3月 8,500円
<工賃総額>	工賃総額 586,500円

#### 重点課題

- ・利用者、一人ひとりの力が最大限に発揮できるような活動を作ります。
- ・身体機能維持・改善を医療と連携し行います。
- ・外部機関や地域とのつながりを大切にします。
- ・自ら考え、提案・発信できる職員集団を目指します。
- ・授産品の売上状況などを職員間で共有し、自治会で利用者に報告します。

#### 具体的な取り組みと成果

- ・利用者1人ひとり力が発揮できるよう自分の取り組みやすいタイミングや活動内容でしっかりと活動に取り組むことができました。しかし全ての活動においてできたとはいえません。活動内容の見直しと利用者の支援内容の見直しを検討していく必要があります。
- ・嘱託医や作業療法士から、摂食についてやストレッチ方法などそれぞれの利用者に必要なことを相談し専門的な意見をもらいました。その意見を会議やご家庭で確認しながら支援に反映させました。
- ・活動センターかなえと合同で「わたしたちの作品展」をイオン東久留米ホールで行いました。また、自主製品を販売するため「手作り品販売会」をマルフジ東久留米店で行いました。ご近所にチラシを配布するなど地域とのつながりを大切におこないました。
- ・月2回の職員会議と現場会議で利用者支援や活動についての会議を行いました。障害特性についてや発達段階など支援を考える上で大切なことです。内部・外部の研修などを利用し学習していくことが今後の課題です。
- ・牛乳パック卸しなどの売上が自治会で報告しましたが、継続的に報告を行う事や利用者に分かりやすく伝える工夫が必要です。また売上げ状況について会議で職員間で共有していくことも必要です。

## 各班の活動

### <さくら班>

#### ○方針

- ・活動の見通しが持てるように支援します
- ・仲間を意識できる活動、取組みをしていきます。
- ・自主製品に向けた取組みとしてさきおり・陶芸・創作の活動を行います。

#### ○具体的な取組みと成果

- ・全体の朝の会の後に、利用者に分かりやすいように活動内容やバディの確認などを行いました。確認の話が終わると積極的に作業の準備を始める利用者の姿も見られるようになりました。また、片づけなども利用者に声をかけ行うようにしました。声をかけられた利用者が別の利用者にも声を掛け、一緒に片付けをする姿も見られました。
- ・陶芸の活動で作ったお皿、創作活動で描いた絵画などを作品展（東久留米イオンホール）に展示したり、自主製品の販売をする販売会（マルフジ東久留米店）を行いました。新しい製品作りにも取組み、昨年度より売り上げを伸ばすことができました。

#### ○まとめ

- ・利用者に分かりやすいように確認を続けることで、自主的に活動に取り組む姿が見られるようになりました。利用者同士のやり取りも少しずつですが増えてきています。

### <りんご班>

#### ○方針

- ・一人ひとりが気持ちや要求を表現できるように支援します。
- ・気分転換をします。活動の中でそれぞれのペースや楽しみ方で過ごします。

#### ○具体的な取組みと成果

- ・活動前には「○○しましょう」や「○○したい人いますか？」など利用者に問いかけるようにしました。「もっと仕事したい」や「仕事したくない」などいろいろな気持ちや要求がでてきます。気持ちや要求を全部受け止めるのではなく、例えば仕事の中で他の人の分もやりたい人には、順番にやることや他の人の仕事がなくなってしまうことなどを丁寧に伝えました。仕事をしたくない人には、今何をやる時間で何のために活動しているのかを伝え、少しでも活動に関われるように支援しました。

このようなやり取りを丁寧に行うことで、それぞれが関わりやすいタイミングでし

っかり活動に取り組みました。また、やり取りの中で否定的な声掛けが多くなり、利用者のやる気がなくなってしまうこともありました。

- ・ウォーキングで体を動かしたり、音楽を聞いてゆっくりする時間を取り入れました。また、午前と午後活動の中でも、前半は集中して取り組む時間、後半はゆっくり過ごす時間とメリハリをつけて活動しました。仕事以外の活動を取り入れることで一週間通して仕事や活動に取り組むことができました。

#### ○まとめ

- ・利用者一人ひとり丁寧にやり取りしていくことで、利用者の姿に合わせた活動への取り組みを行う事ができました。肯定的な言葉を使うなど今後の課題です。
- ・メリハリを持った活動スケジュールを組むことで一週間通して活動に取り組めました。

### <授産事業について>

- ・資源回収・おろし 売上(目標 200,000 円) 243,149 円  
大口回収先を年に数回の回収頻度から毎月 1 回に変えました。毎月 1 回の回収でも回収量が多いので、回収頻度を増やすか検討していきます。また缶つぶし機の老朽化に伴い新しい缶つぶし機購入の為に助成制度へ申請をしました。
- ・パック整理・卸し 売上 18,953 円  
パック整理やおろしで使用する箱が壊れてきているため、コンテナの購入を検討します。
- ・広報配り(東久留米市報、チラシ、ぱど) 売上(目標 250,000 円) 282,713 円  
月 2 回の東久留米市報配布に加え、地域情報紙ぱどの配布をはじめました。現在中央町 6 丁目だけですが定着してきているので中央町 2 丁目も配布できないか検討していきます。また雨天時には広報誌が濡れてしまうことがあるので検討が必要です。
- ・自主製品(さきおり、陶芸、手芸) 売上(目標 50,000 円) 37,850 円  
作品展、販売会に向けて陶芸ストラップの作成、瓶オープナー、さきおりバック、さきおりストラップなど新しい製品も作成しました。
- ・注文販売(お茶・ペーパー・ふきん) 売上(目標 230,000 円) 269,240 円  
お茶、トイレトペーパー、ティッシュ、ふきんの注文販売を行いました。利用者のご家族以外にご近所や、昔からのお得意様からもご注文を頂きました。新茶の時期には、新茶の注文案内を配りました。
- ・ボーナスへの取り組み 売上(目標 400,000 円) 555,640 円  
カタログやお便りのセット、折りの作業など利用者に関わる部分を増やしました。進んで作業に取り組もうとする利用者の姿も見られるようになりました。

## <その他の活動>

- ・自治会

自治会の中でレクや交流会など行事の話をし、行き先や係などを決めました。それぞれの班の旅行前には、班ごとに自治会を行い旅行の計画を立てました。また、きょうされんの運動に関する行事や国会請願運動の話を自治会の中でお知らせしました

- ・調理活動

それぞれのメニューで担当を決め、買い物も自分の担当するものを購入しました。怪我、事故等なく楽しく活動できました。

- ・創作活動

ゆびえのぐの他にポスカやクーピーなどを使いながら絵を描きました。画材も画用紙以外に小さな箱や発泡スチロールの立方体などを使用しながら活動しました。

- ・レクリエーション、旅行

班別でレクを行いました。自治会で多数決をとり行きたい場所を決めて行いました。今年度は新しく、びっくりドンキーで昼食を食べるなど新しい場所にも出かけました。旅行も班別で行い安全に楽しむことができました。

- ・ウォーキング、プール活動

プール活動ではビート板を使いながら浮いてみたり、プール内を歩きました。ウォーキングでは、少しでも歩ける時間を確保できるようにそれぞれのペースで何周するか目標を決めました。

## ① 利用者の状況（平成29年3月31日現在）

### a. 人数構成

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
さくら班	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
りんご班	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6
合計	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	16	16

### b. 居住地別

	東久留米市	西東京市	清瀬市	合計
さくら班	8	1		9
りんご班	6		1	7
合計	14	1	1	16

### c. 日中活動の場

	自宅 (家族同居)	自宅 (1人暮らし)	生活寮	合計
さくら班	4		5	9
りんご班	6		1	7
合計	10		6	16

### d. 年齢構成

	性別	～20	～25	～30	～35	～40	～45	～50	51～	計
さくら班	男				1	1	2	2		6
	女			1			2			3
りんご班	男			2		1	2			5
	女			1		1				2
合計				4	1	3	6	2		16
平均年齢		男性39.3歳			女性36.2歳			合計37.8歳		

## e. 障害区分

### ○手帳別

身体障害者 及び 知的障害者		愛の手帳（知的障害）						
		1度	2度	3度	4度	なし	合計	
身体 障 者 手 帳	1 種	1級		1	1			2
		2級		1				1
		3級		1				1
	2 種	2級		1				1
		3級		1				1
		4級						
	なし			9	1			10
合計			14	2			16	

※精神障害者手帳所持者（3級）1名

### ○障害程度区分別

	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	合計
さくら班	6	2		1			9
りんご班	7						7
合計	13	2		1			16

## f. 障害・疾患（医療的ケア）の内容

知的障害 視力障害 聴力障害 てんかん 自閉症 ダウン症  
 第五染色体異常症 脳性マヒによる体幹機能障害 その他

## g. 車いすの使用状況

利用状況		さくら班	りんご班	合計
常時使用	自力移動可		1	1
	自力移動不可		1	1
状況により 使用	外出時使用	1		1
	その他	1		1
独歩	要介助	6	5	11
	独歩	1		1
合計		9	7	16

### ③ スタッフの状況 (平成29年3月31日現在)

#### a. 運営体制 (述べ人数)

職名	常勤	非常勤	パート	委託	合計	備考
施設長	1				1	
サービス管理責任者	1				1	
事務		1			1	
支援員	3	1	8		12	
運転手				1	1	
看護師			1		1	月2回
嘱託医		1			1	3ヶ月に1回
作業療法士		1			1	月1回程度
会計				1	1	
労務士				1	1	
合計	4	4	9	3	20	

## b. 1 日の体制

職名		常勤	パート	委託	合計	
施設長		1			1	
事務		1			1	
管理者 サービス	さくら班	1	2	3	1	5
	りんご班		2	2		4
給食				1	1	
運転手				1	1	
合計		7	5	2	13	

※パー（実践）：8時30分～、9時～、9時30分～、10時～状況によっていろいろ  
～15時30分、～16時、～16時30分、～17時、

※委託 給食運搬（配膳）：11時30分～12時30分

※委託 運転手（運転）：朝・帰りの送迎のみ 8時30分～10時、15時30分～17時、

## c. 各会議、打ち合わせ

会議名	参加スタッフ	開催頻度
職員会議	施設長、職員	毎月2回
リーダー会議	施設長、サービス管理責任者、各班主任	週1回
現場会議	職員	毎月2回
健康・防災・車両 きょうされん	担当職員	毎月1回

## ④ 利用者の仕事・活動の内容

### a. 運営体制

	さくら班	りんご班
利用者数	9	7

### b. 日課表

時間	スタッフの動き	
8 : 3 0	朝礼 送迎 準備	送迎
9 : 3 0	活動準備 受け入れ	受け入れ
1 0 : 0 0	朝の会・活動援助	朝の会 ラジオ体操 作業開始
1 1 : 0 0	昼食準備	1 5分休憩 作業終了
1 2 : 0 0	昼食、食事介助	昼食
1 3 : 0 0	休憩 活動援助	休憩 作業開始
1 4 : 0 0	休憩 活動援助	1 5分休憩
1 5 : 0 0	帰りの会	帰りの会 帰りの支度
1 5 : 3 0	送迎開始	送迎開始
1 6 : 4 5	終礼	送迎終了

なかまの家 (さくら班・りんご班)		
仕 事	資源回収 アルミ缶つぶし 牛乳パック整理・卸 広報ひがしくるめ配布 地域情報紙ぱど配布 (陶芸・さきおり)	活 動
		プール 調理活動 ウォーキング 宿泊旅行 レクリエーション 創作 陶芸・さきおり

### c. 行事・レクリエーション

月	さくら班	りんご班
4月	小金井公園 昼食（お店で好きなお弁当を購入）	小金井公園 昼食（お店で好きなお弁当を購入）
5月	カラオケ（シダックス武蔵村山店） 昼食（夢庵 東久留米弥生店）	カラオケ（シダックス武蔵村山店） 昼食（夢庵 東久留米弥生店）
6月	ドライブ（多摩湖） 昼食（びっくりドンキー立川砂川店）	ドライブ（多摩湖） 昼食（びっくりドンキー立川砂川店）
7月	サイボクハム 昼食（レストランサイボク）	旅行（那須方面）
8月	カラオケ（シダックス武蔵村山店） 昼食（バーミヤン東久留米滝山店）	カラオケ（シダックス武蔵村山店） 昼食（夢庵 東久留米弥生店）
9月	ドライブ（多摩湖） 昼食（びっくりドンキー立川砂川店）	ドライブ（多摩湖） 昼食（びっくりドンキー立川砂川店）
	・『いのちかがやけ』出展	
10月	航空公園 昼食（とんでん清瀬店）	航空公園 昼食（とんでん清瀬店）
11月	旅行（那須方面）	神代植物園 昼食（深大寺そば）
12月	忘年会（なかまの家）	
1月	深大寺（初詣） 昼食（深大寺そば）	深大寺（初詣） 昼食（深大寺そば）
	・『びゅああと』出展	
2月	カラオケ（シダックス武蔵村山店） 昼食（びっくりドンキー立川砂川店）	カラオケ（シダックス武蔵村山店） 昼食（びっくりドンキー立川砂川店）
	・活動センターかなえと合同で作品展（イオンモール東久留米）	
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会（こもればいホール）</li> <li>・活動センターかなえと合同で販売会（マルフジ東久留米店）</li> </ul>	

## 2. 生活寮部門 事業報告

### 生活寮部門 重点課題

- 1 4ユニットの職員が連携しながら余暇時間・生活内容の充実をはかります。
- 2 利用者のニーズの掘り下げや実現に向けての話し合いの場をつくります。
- 3 日中作業所や専門機関との連携をし、食生活・医療的ケアなどの支援体制をつくり  
ます。
- 4 自ら考え、提案・発信できる職員集団を目指します。

### 具体的な方法と成果・今後の課題

今年度は同じ敷地内のユニットとの連携を深める目的で、月に1回のユニット会議（うみそら・にじかぜ）を新設しました。ケースに重点を置いた話し合いの場を作ることで各ユニットの入居者への理解度を高めるよう行なっています。また、前年度行なっていた主任会議を改め生活寮責任者会議を1月より毎週行なっています。各ユニットの現状を共有し課題解決に取り組んでいます。

食事については、食事指導の専門家から意見を聞き食生活での安全な環境を整えるよう支援しています。

職員会議では、職員が自ら発言し意見を述べ情報共有し利用者支援につなげています。研修・学習会などへの参加については、人員不足の影響もあり十分に参加することができていません。今後支援の充実を図るために外部研修等に参加できる仕組みを作っていくことと人員の確保が引き続きの課題となっています。

## 1) 生活寮そら

入居者支援については、それぞれの入居者の個別のニーズに対応してきました。個別支援計画に対する振り返りを定期的に行なえるよう意識し、記録のつけ方等についても振り返りをしやすいように工夫をしています。今後も引き続き、個別支援計画を軸にして全てのスタッフが支援に対して分りやすいように工夫していきます。

昨年度からの取り組みとして引き続き、専門職との関わりを大切にしてきました。具体的には、現在4ユニット全体(28名)で、訪問看護ステーションに4名の方が登録(前年度より3名増加)し、月に1~3回看護師やOT(作業療法士)による体調面・食事・姿勢等のアドバイスを受けています。利用者が高齢化する中で、支援に関して専門的な関わりを持ってもらうことで、ご本人やご家族、スタッフも安心して支援に携わることができています。

今年度は1月末に入居者の退所がありました。以前より本人から移動の希望がありましたが、法人内の他ユニットへの移動は難しく退所せざるを得ず、地域の中での社会資源の乏しさと合わせて、法人・事業所の力量不足を痛感しました。

1名退所により2月より新しい入居者が入所されました。ご本人・他入居者が見通しを持ちやすいように対応し生活寮での新しい生活を送るための支援をして行きます。

スタッフ体制については、年度途中で退職者がおり支援体制を維持するために日中事業所にも協力をしてもらい365日利用の入居者の生活に影響なく対応することができています。しかしながら、体制が出来ていないユニットもあり人員の確保することが早急な課題となっています。また、日中のスタッフや新しいスタッフが支援しやすくするために業務のマニュアル作りを進めています。

施設設備的には、今年度は共同募金会の助成を受け「にじ」の浴室に移乗用リフトを設置。また、後援会より寄付をいただき、「そら」の浴室にも移乗用リフトを設置することが出来ました。

### ①施設の運営状況

<開所日数> 365日

<在籍者数> 28人

### ②利用者の状況 (平成29年3月31日現在)

#### a. 人数構成

うみ(共同生活援助7名) そら(共同生活援助7名)

にじ(共同生活援助7名) かげ(共同生活援助7名)

## b. 日中活動の場

	法人内			法人外	一般就労	合計
	のぞみの家	活動センターかなえ	なかまの家	福祉作業所		
うみ	3	2	1	0	1	7
そら	4	2	1	0	0	7
にじ	3	1	2	1	0	7
かぜ	2	2	2	1	0	7
合計	12	7	6	2	1	28

## c. 年齢構成

	性別	～25	～30	～35	～40	～45	～50	51～	合計	平均
うみ	女	0	0	0	1	2	3	1	7	47.0
そら	男	0	0	1	2	3	0	1	7	42.4
にじ	女	0	1	2	2	1	1	0	7	37.5
かぜ	男	0	1	3	1	2	0	0	7	34.8
合計		0	2	6	6	8	4	2	28	40.4

## d. 居住地別

	東久留米市	東村山市	清瀬市	西東京市	合計
うみ	6	1	0	0	7
そら	6	0	1	0	7
にじ	6	0	0	1	7
かぜ	7	0	0	0	7
合計	24	1	1	1	28

## e. 障害状況

### ○障害程度区分

	区分6	区分5	区分4	区分3	なし	合計
うみ	5	2	0	0	1	7
そら	6	1	0	0	0	7
にじ	7	0	0	0	0	7
かぜ	5	2	0	0	0	7
合計	22	6	0	0	1	28

○手帳別

身体障害者 及び 知的障害者		愛の手帳（知的障害）						
		1度	2度	3度	4度	なし	合計	
身体 障害 者 手 帳	1 種	1級	1	5	1	3	0	10
		2級	0	3	0	0	0	3
		3級	0	0	0	0	0	0
		4級	0	0	0	0	0	0
	2 種	4級	0	1	0	0	0	1
		5級	0	0	0	0	0	0
	なし		1	10	2	1	0	14
	合計		2	19	3	4	0	28

f. 障害・疾患（医療的ケア）の内容

知的障害 視力障害 聴力障害 てんかん レノックス症候群 自閉症  
脳性マヒによる体幹機能障害 ダウン症 小頭症 精神障害 その他

g. 車椅子の使用状況

利用状況		うみ	そら	にじ	かぜ	合計
常時使用	自力移動可	0	0	0	0	0
	自力移動不可	3	2	1	1	7
状況により使用	外出時使用	0	0	1	0	1
	その他	0	0	0	0	0
独歩	要介助	0	0	0	0	0
	独歩	4	5	5	6	20
合計		7	7	7	7	28

### ③ スタッフ状況

#### a. 運営体制（延べ人数）

	常勤職員	非常勤職員	パート	委託	計	備考
寮長	1	0	0	0	1	
サービス管理責任者	2	0	0	0	2	
事務	1	0	0	0	1	
うみ	2	0	10	0	13	
そら	2	1	7	0	10	
にじ	2	0	5	0	7	
かぜ	2	0	10	0	12	
嘱託医	0	0	0	1	1	適宜
会計士	0	0	0	1	1	月1回以上
労務士	0	0	0	1	1	適宜
清掃	0	0	0	1	1	週2回
計	13	1	32	4	50	

#### b. 日課表

早番：07：00～10：00 （06：00～10：00）

遅番：15：45～21：00 （15：45～23：00）

夜勤：15：45～翌日10：00 （2時間30分の休憩を含む）

#### ○勤務例として

スタッフ	月	火	水	木	金	土	日	計
A	夜勤		夜勤		早番：遅番			
	16h		16h		8h			40.0h

スタッフ	月	火	水	木	金	土	日	計
B		夜勤		夜勤		早番：遅番		
		16h		16h		8h		40.0h

#### c. 行事・レクリエーション

- ・バーベキュー（5月）
- ・クリスマス会（12月）
- ・誕生日献立（利用者誕生月）

#### d. 各会議・打ち合わせ

会議名	参加スタッフ	開催頻度
職員会議	施設長、正規職員、非常勤職員	毎月1回
生活寮責任者会議	施設長、サビ管、他	毎週1回
ユニット会議	うみそら職員・にじかぜ職員	毎月1回
ケース会議	各ユニットの職員	適宜

## 2) 短期入所

にじかぜ短期入所では、定期的に利用される方が増えてきている中、人員配置が安定せず1月より女性の受入れが出来なくなっております。12月までは前年度を上回る稼働率となっておりますが、最終的な稼働率の平均値はやや低めとなりました。

取り組みとしましては、1泊の利用が多い利用者の連泊の受入れなど新たな試みもおこなってきました。また、日中支援部門と連携し利用者の支援内容の変更・掘り下げを行ない、暮らしの幅を広げる支援を取り組みました。

今後の課題は人員の確保をして女性の受入れを再開することはもちろん、支援の幅を広げる事や・新規の受入れなども行なっていけるよう工夫していきます。

施設設備的には、今年度は共同募金会の助成を受け、走行式の移乗用リフトを購入しました。

### ①施設の運営状況

<開所日数> 185日

<定員> 2名

### ②利用者の状況 (平成29年 3月31日現在)

月	利用可能日①	定員②	合計利用可能数③ ①×②=③	利用状況④	稼働率⑤ ④/③×100=⑤
4月	16	2	32	31	96.9%
5月	15	2	30	30	100.0%
6月	18	2	36	32	88.9%
7月	15	2	30	27	90.0%
8月	14	2	28	27	96.4%
9月	15	2	30	28	93.3%
10月	16	2	32	30	93.8%
11月	14	2	28	25	89.3%
12月	14	2	28	27	96.4%
1月	15	2	30	12	40.0%
2月	16	2	32	16	50.0%
3月	17	2	34	18	52.9%
合計	185	2	370	303	81.9%
平均値	15.4	2	30.8	25.2	

※利用可能日については、現在、入居者のいる日で月～木の週4日間となっている。

## 3 余暇・居宅・相談支援部門

### 重点課題

- ・実践会議、職員会議を定期的で開催し、利用者の状況を確認し遊び方を考えたり情報を共有する会議を設けます。
- ・発達相談室や相談支援部門と連携を図ります。
- ・家庭環境に課題のあるケースに関しては関係機関（学校・子ども家庭支援センター・障害福祉課等）との連携を図り支援していきます。
- ・幼児期に障害が発見されて悩んでいる家族の支援を検討していきます。
- ・成人の余暇を支える仕組み作りを考えて実践していきます。

### 具体的な取り組みと成果

実践会議、職員会議では三事業での実践における課題点や様々な活動の計画を話し合うことができ実践に活かすことができました。

家庭の問題や本人の学校の行き渋りについての登校支援を行い、学校に通える子どもたちが増えてきました。

成人の余暇を支える仕組み作りに関しては生活寮の利用者を中心に定期的に移動支援を行い利用者の思いに寄り添いながら支援を行うことができました。

家庭環境に課題のあるケースに関しては相談支援部門を中心に、学校・子ども家庭支援センター・障害福祉課発達相談室などの関係機関と連携し支援を行うことができました。

# 1) 放課後等ディサービス

## ① 施設の運営状況

<開所日数> 242日

<在籍者数> 44名

### まとめ

今年度も年齢・学年別の活動を取り入れましたが、一人ひとりに快適な居場所を提供したいと考え年齢、学年にはとられない活動も行いました。その中でお互いを意識したりやり取りも少しずつ増えてきています。年度の途中から手を使うことで操作性を高める活動も取り入れたりしました。長期休暇の時は、みんなで協力して食事作りをして仲間意識を育てたり、買い物をしてお金の使い方、調理では量を計ったり、昼食作りを通して学習を行いました。

## ② 利用者の状況（平成29年3月31日現在）

### a. 人数構成

<登録者数> 44名

<1日の活動者数> 10名

### b. 居住地別

<利用者居住地> 東久留米市44名

### c. 年齢構成

	性別	小学1~2 年	小学3~4 年	小学5~6 年	中学1~3 年	高校1~3 年	合計
利用者	男	3	10	7	8	6	34
	女	0	1	1	7	1	10
合計		3	11	8	15	7	44

#### d. 障害状況（手帳別・障害程度区分別）

身体障害者 及び 知的障害者		愛の手帳（知的障害）						
		1度	2度	3度	4度	なし	合計	
身体障害者手帳	1種	1級		1				1
		2級	1	1				2
		3級			2			2
		4級			1			1
		5級						
	2種	1級						
		2級						
		3級						
		4級						
		5級						
		精神3級					1	1
		なし	1	18	13	10	10	52
		合計	2	20	16	10	11	59

#### e. 障害・疾患（医療的ケア）の内容

知的障害 てんかん レノックス症候群 自閉症 脳性マヒによる体幹機能障害  
 ダウン症 精神障害 その他

#### おもな学校

東京学芸大附属特別支援学校

清瀬特別支援学校

東久留米市立第三小学校 すずかけ学級

東久留米市立第七小学校 しらゆり学級

東久留米市立神宝小学校 わかば学級

東久留米市立南町小学校 たけのこ学級

東久留米市立第二小学校

## ① スタッフの状況

### a. 運営体制

職名	常勤	非常勤	パート	委託	合計	備考
施設長	1				1	
事務	「1」				「1」	
支援員	2「1」		15		17「1」	
運転手						
看護師						
会計				1	1	
労務士				1	1	
合計	4	0	15	2	21	

※「」内は兼務

### b. 放課後等デイサービスの1日の流れ

授業日	13:30～	送迎	休業日	10:00	活動開始
	15:15～17:30	活動開始		12:00	お昼
	17:30	あいさつ 送迎		13:30～15:30	午後活動開始
	18:00	家族お迎え		15:30～	あいさつ 送迎
				16:00	家族お迎え

### c. 年間行事

5月	こどもまつり
7月	清瀬特支夏祭り イリアンソス夏祭り
8月	夕涼み会 おひさまサンサンフェスティバル
9月	いのちかがやけ作品展
10月	他事業所合同ハロウィンパレード
12月	にぎやかカーニバル
2月	もちつき
3月	ぼかぼか春の集い

#### d. 各会議・打ち合わせ

職員会議	施設長、正規職員	隔週1回
現場会議	正規職員・主任	毎週1回

## 日中一時支援事業

### まとめ

今年度もわかき学園発達相談室と連携して、未就学児を抱えて悩んでいる母親のサポート午前中おこなってきました。母親や子どもたちにとって居心地の良い環境を作り子育て相談もおこないました。今後も要望が増えてくることが予測されます。

学校に通う事が難しい子どもたちへの登校支援をおこない、時間をかけて支援する中で子ども自ら折り合いをつけて学校にも通うようになりました。嬉しいことに、このみの活動にも興味を持ち、利用者としてではなく活動の手伝いをしたいという希望もありました。学校・障害福祉課・子ども家庭支援センター・発達相談室と連携を密に行っていく中で支援の仕方を確認し合い、連携することができました。

## 移動支援事業

### まとめ

依頼ごとに目標、テーマを決めて支援を行いました。子どもが一人で登下校できるための支援は、移動支援事業で対応してきました。具体的には、事前に家庭や学校とやり取りした上で、下校時に本人と距離を取りながら後方からの見守り支援を行いました。その結果、数名の利用者は一人通所ができるようになり、そこから自信が付き様々な活動にも積極的な一面が増えてきました。移動支援を行っている人の支援中の留意点など詳細を作成したことで統一した支援を行うことができました。

成人に関しては、平日には定期健診の支援を行いました。毎週土曜日には定期的に支援を行うことができました。生活寮の担当者、他の移動支援事業者とで支援の確認や情報共有する会議も行うことができました。